

排出ガス後処理装置検討会について（案）

平成 24 年 10 月 1 日

1. 概要

使用過程の尿素 SCR システム搭載新長期規制適合車（以下「尿素 SCR システム車」という。）の NO_x 排出量を計測したところ、規制値を大幅に超過する事例が確認され、本年 3 月の第 49 回自動車排出ガス専門委員会において、使用過程車の触媒の HC 被毒及び前段酸化触媒の劣化を原因とする性能低下が報告された。これを受け、自動車メーカーに対し尿素 SCR システム車での HC 被毒対策の検討を要請しており、自動車メーカーが行う対策の有効性について検証する必要がある。また、前段酸化触媒の劣化原因及び起因する走行パターンについても引き続き究明し、耐久試験法の見直し等により使用過程での性能低下への対策を行う必要がある。

また、平成 23 年度のオフサイクルにおける排出ガス低減対策検討会において、シャシダイによる排出ガス試験で同一エンジンでも後処理装置のレイアウト位置によって温度条件が変わり、排出ガス量が大きく異なることが判明した。このため、エンジンベンチによる排出ガス認証試験条件を、NO_x 後処理装置にとって実態の中でもより厳しい条件に変更することが望ましい。

これらの対策の必要性は、「今後の自動車排出ガス低減対策のあり方について」（第十一次答申）においても提言されている。このため、使用過程での NO_x 後処理装置性能低下対策、後処理装置のレイアウト等を考慮した排出ガス低減対策を検討するため、今回、学識経験者等からなる検討会を設置する。

2. 検討すべき課題、アウトプット（案）

- ・ 新長期規制適合車に搭載された尿素 SCR システムの性能低下の原因究明
- ・ 走行実態を考慮した耐久性試験法への改訂
- ・ NO_x 後処理装置のレイアウトを考慮した排出ガス認証試験法への改訂

3. 構成メンバー

塩路 昌宏	京都大学大学院エネルギー科学研究科教授（座長）
飯田 訓正	慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科教授
岩本 正和	東京工業大学資源化学研究所教授
小田 曜作	（独）交通安全環境研究所自動車審査部長
後藤 雄一	（独）交通安全環境研究所環境研究領域長
小谷野 眞司	（公財）東京都環境公社東京都環境科学研究所調査研究科主任研究員
大聖 泰弘	早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科教授
津江 光洋	東京大学大学院工学系研究科教授
土屋 賢次	（一財）日本自動車研究所エネルギー・環境研究部長

4. スケジュール

- ・ 10月1日に第1回検討会開催
- ・ 課題毎に可能な限り早期に対策を決定
- ・ 平成25年度内に最終取りまとめ

5. その他

- ・ 事務局は、環境省水・大気環境局総務課環境管理技術室及び国土交通省自動車局環境政策課が務める。
- ・ 検討会は自動車メーカー等の機密保持の観点から非公開とし、報告書は公開とする。